

セカンドライフ ファクトリー通信

発行者
矢富直美
一般社団法人
セカンドライフ
ファクトリー

SLFイベントの再開のお知らせ

講演会 講演会をテレビ会議で実施します。第74回SLF講演会のご案内をご覧ください。

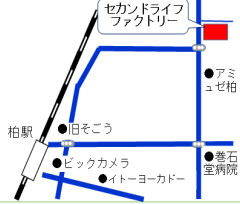
脳トレ健康麻雀 4月より休講しておりました脳トレ健康麻雀講座を次の要項に沿って再開いたします。

1. 期間：6/23(火)～9/30(水) (暫定期間と致します)
 2. 各クラスは20名(5卓)以内限定し、20名を超えるクラスは分割致します。
 3. 講座時間：110分に短縮します。
 4. 講座参加厳守事項
 - ① 受付時検温の実施
 - ② 講座中もマスクを着用
 - ③ 入退出時、ハンドジェルで手を消毒
 5. 講習料は現行の通り
- わいわいサロン** 一部を除きテレビ会議で実施しています。一部で事

セカンドライフファクトリー (SLF) 紹介

我が国が加齢に伴って生じるさまざまな問題を解決するために、地域づくりの活動を行っています。東大の生きた研究を、地域に還元し、高齢者の生活の質を向上させることを目指しています。

アクセス



柏駅東口より徒歩8分 アミューゼ柏と同じ並び市役所寄り、当ビル1階赤い看板の「はんこ屋さん21」が目印
住所・電話は下部青帯

Zoomを使った テレビ会議の開き方について説明書を作成しました

ZOOMはパソコン、スマホ、タブレットを使ってオンラインで会議ができるソフトです。基本的なサービスは無料で使えます。

ZOOMの使い方をやさしく説明した資料を作成しました。「ZOOMを使った会議の開き方」資料はセカンドライフファクトリーのホームページ(URLは最下段青帯)のお知らせ欄に記事を掲載しています。

務所とテレビ会議の混合を予定しています。
再開いたします。 7月3日より

状況によって変更する場合があります。詳しくはHPを参照または電話でお問合せください。

第74回SLF講演会のご案内

「認知症予防の最新事情」

講師 SLF研究所所長
矢富直美 先生

形式 ZOOMを使ったテレビ会議形式

内容 昨年、政府は、認知症予防の施策目標として、当初、70歳の人たちの認知症発症を一年遅らせるという画期的な目標を打ち出しましたが、認知症になってしまった人たちが差別をうけるという福祉関係者からの批判が相次ぎ、この画期的な政策目標を取り下げてしまいました。本講演では、認知症予防の研究の最新の情報を踏まえ、認知症予防の施策はどうあるべきか、皆様が認知症にならないため

に、何をなすべきかお話ししたいと思います。

日時 6月19日(金)
10時～11時30分

※途中5分休憩

参加方法 講演会はパソコン、スマホ、タブレットを使用したオンライン形式。生中継で行います。Web会議アプリ「ZOOM」を使用します。

開始時間になりましたら「ZOOM」で参加してください。
9:45より参加操作開始可能。
※SLF会員以外の方は申込時にその旨お申し出ください。

費用 無料
主催 一般社団法人セカンドライフファクトリー(SLF)
申込 メール：info-slf@jcom.home.ne.jp (件名：第74回講演会申込)
WEB：セカンドライフファクトリー
(<https://www.secondlifefactory.org/>) の講演会の申込ページ

申込期限 6月17日(水)

注意事項 ① ZOOM参加時の名前は本名(姓名)を漢字で入力してください。上

記と異なる場合は誰が参加しているかを把握できないため、退場していただきます。
② ZOOMの操作(会議の参加方法)についてはSLFのホームページをご覧ください。
<https://www.secondlifefactory.org/2020/05/07/zoom-tukakata/>

この資料の1ページから11ページをご覧ください。12ページ以降は見る必要はありません。

③ 休憩時間にZOOM会議が中断された場合は、再度参加操作をお願いします。
④ 質疑応答について 質問時間になりましたら、質問のある方はZOOM操作「手を挙げる」を行っていただきます(実際に手を挙げるものではありません。「ZOOM」上の操作です)。
操作方法は事前に左記をご覧ください。
<https://zoom-japan.net/manual/pc/zoom-handraised/>

⑤ 参加する端末はパソコン、スマホ、タブレットで可能です。
デスクトップパソコンの場合は、Webカメラ、マイク、スピーカー(またはイヤホン)が必要です。

連載

セカンドライフをどう生きる
(第25回)

今回は、前回に引き続き、ポストコロナにおける生活の変化について考えてみよう。

人間社会の進化は、人々の専門性の分化とそれを統合する仕組みから生み出されて来たといってもよい。そのふたつの活動は、人々が移動し、直に情報を交換することで達成されてきた。職場や学校はまさにそうした場であった。ところが、新型コロナウイルスは、人間の移動と接触を通じて蔓延する。新型コロナウイルスの感染を完全に抑え込むには、

移動と接触をやめることをすればよいのだが・・・しかし、それは一時的には可能かもしれないが、長期的それに耐えるには、移動と接触をしないで済む方法を開発しなくてはならない。



にわかに我々の生活に浸透してきているのがWEB会議による情報交換である。WEB会議では、移動と直接接触を排除して、しかもかなり十分な情



報交換ができる。多くの企業では、コロナ対応で、テレワークの導入が余儀なくされた。これが、人々の働き方を変えつつある。一般的なテレワークでは、会議の時だけでなく通常の個人的な仕事でも、のべつ幕なしに会議ソフトをONにしておき、いつでも必要な時には話しかけることができる状態で仕事をしているのが通例であるようだ。テレワークが導入された企業では、仕事がすべて白日の下にさらされるので、だれが役に立たない社員なのかかわかってしまう。特に、管理職の地位に胡坐をかいてきた人々には、厳しい事態になっているという。

もちろん、人と接するサービス業や農業、製造業、建設業などはテレワークではすまない分野もある。

いままで、日本の企業では、専門性を育てる風土がなかった。したがって、中途半端な技術と知識で仕事を何とか切り抜けることができた。もしかしたら、テレワークをきっかけとして専門性を重視する方向に日本の企業の働き方が、大きく変わるかもしれない。

テレワークの良きの第一は、通勤がないことである。満員電車で通勤していた人にとっては、感染の恐怖から逃れることができる。また、通勤時間に取られていた時間を趣味や子育てや地域のボランティア活動などに充てることができる。これで日本の企業でなかなか実現できなかった、ワークライフバランスを変えることができる。

こうしたテレワークが定着すると、長時間勤務の割には生産性が低い会社での仕事すべてという会社人間や、仕事帰りに同僚と赤ちようちんで一杯という典型的な村社会的サラリーマンの働き方は、減っていくに違いない。最近の報道によると若い人たちに、完全テレワークの会社が人気で、大都市部の感染のリスクの高い地域から感染のリスクの低い地方の移住の希望が増えているという。

シニア層にとっても、生活の中にWEBによる「移動なし、非接触」の行動パターンが多く入り込んでくるはずだ。聞くところによると、結婚式や葬儀もWEBによるものが出てきているという。結婚式や葬儀は、出席してもらいたい人が、職場がある都会の人であったり、田舎の親せきであったりする。というわけで、WEB結婚式、WEB葬儀もむべなるかなと思うのである。

もし、そうしたことが文化・芸術、医療などを含めた様々な生活の局面で一般化したときには、シニア層の人たちもWEBリテラシーを持たなければならぬ。

日本は生活の中でのWEB対応が遅れ、中国や韓国などの周辺国からもバカにされてきた。ポストコロナでもガラパゴスにならないように、WEBリテラシーを高めようではないか！



わいわいサロン
会員募集

趣味や学習活動を仲間と一緒に楽しむサロンです。参加費無料。

《サロン一覧》
楽しく終活を話そう！
スマホを使おう！
写真を楽しもう！
いつまでも勉強しよう！
投資を楽しもう！
先端技術を知ろう！
(仮称)

詳しくはWebで。セカンドライフファクトリーで検索。

広告



庭木のお手入れは
SLFガーデン
サポートへ
お見積り無料

安価で丁寧な仕事
庭木の改作を提案

TEL 04-7100-2839
<http://slf-gardensupport.com/>



暮らしの支援
えんがわ

生活のお手伝い

お掃除
お庭仕事
買い物代行
困りごと相談

TEL 04-7100-2839
<http://kurashi-engawa.com/>

(矢富直美)